

令和4年度 上河内西小学校 学校評価計画書

1 教育目標（目指す児童像含む）

○ 自立（ひとりで） ・ 進んで学べる子 ・ 自ら考え解決できる子 ・ 自信をもって行動できる子	○ 共生（なかよく） ・ 人とながりに共に生きる喜びを感じる子 ・ 思いやりがある子 ・ みんなのために働く子	○ 遅しさ（たくましく） ・ 進んで運動し、活力のある子 ・ 最後まで粘り強く取り組む子 ・ 偏食をせず、健康な体をつくる子
---	--	---

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「学びがあり、仲間がいて楽しい学校、子どもを学ばせてよかったと思える学校づくり」のテーマのもと、全職員が、相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。

目指す学校像

- 学びのある学校 ○ 仲間のいる学校 ○ 楽しい学校
○ 子どもたちを学ばせてよかったと思える学校 ○ 地域と共に子どもを育てる学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童一人一人が持続可能な社会の担い手となるよう英気あふれる学校をつくる。
- (2) 学びに向かう環境を整え、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- (3) 自らの目標に見通しをもち粘り強く挑戦する資質・能力を育む教育活動の充実を図る。
- (4) 家庭や地域の信頼に応える「地域に開かれた学校づくり」を推進する。
- (5) 教育公務員としての使命を自覚し、和と協調の精神を大切にして、教育的な専門性の向上に努める。
- (6) 職務の遂行に際しては、教育の質の向上を目的とする働き方を心掛ける。
- (7) ○上河内地域学校園の連携による義務教育9年間を一体とした指導を行う。

[上河内地域学校園教育ビジョン]

かしこく、たくましいゆずっ子の育成

～基本を身に付け、人とながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、栃木県「令和4年度 指導の指針 幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校」、「第2次宇都宮市学校教育推進計画」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」、「令和4年度指導の重点」に基づき、本校教育目標達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省を十分踏まえて編成する。

- (1) 小学校学習指導要領等の趣旨を踏まえた教育課程の編成・改善に努め、教育目標の具現化を図る。
- (2) 学習の基盤となる資質・能力を育成し、子どもの学びの融合・統合が図れるよう、各教科等の特質を生かし、教科横断的な視点で編成を行う。
- (3) より確かな児童理解に基づいて、多様な児童の状況に応じた教育活動が展開できるよう努める。
- (4) 地域の実態を踏まえ、本校の創意工夫を生かした特色ある教育活動の推進を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

「学びがあり、仲間がいて楽しい学校、子どもを学ばせてよかったと思える学校づくり」

- ・ 児童が自己の個性や能力を発揮し、互ともに認め、協力し合って伸長できる学校づくりの推進
- ・ 教職員の授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進

○地区内小中学校、保護者、地域関係者と協力し、地域の教育力を生かした教育活動の推進

- ・ 協働体制・支援体制の充実と業務の適正化によるライフワークバランスを意識した働き方改革の推進

【学 習 指 導】

「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善」

○学業指導の徹底を通じた学びに向かう集団の形成

○基礎学力の向上と家庭学習の充実

- ・ 「宇都宮モデル」の指導過程を活用した授業改善

【児 童 指 導】

「基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守って行動する児童の育成」

- ・ 確かな児童理解に基づいた多様な児童の状況に応じた指導の充実

○基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守って行動する児童の育成（あいさつ・適切な言葉遣い）

- ・ 学級経営や特別活動を基盤としたお互いのよさを認め合うことのできる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

「自分の体や健康及び安全に関心をもち、進んで体力の向上を目指す児童の育成」

- ・ 学校行事等を通じた体と心のたくましさの涵養

○準備運動の工夫を通じた体力（投力・持久力）の向上

- ・ 食に関する指導の充実（望ましい食習慣と食事マナーの啓発）

- ・ 熱中症予防や危険回避能力の育成など健康・安全指導の充実

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価：↑・↓は前年度との比較 5ポイント以上
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①発表や話し合いの仕方についてブロックごとに型を示し、主体的に「自分の考え」を伝え、対話し、練り会えるような授業の展開をする。 ② <u>学びの質を高めるために、めあての立て方、ノートの取り方、まとめ、振り返りの仕方などについて、きめ細かな指導を行う。</u>		
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①道徳科の授業を生かし、自分と異なる意見についてもしっかり考えさせ、他者を認める雰囲気づくりを醸成する。「ふわふわ言葉」の推奨を継続する。 ②縦割り班活動や異学年交流活動を充実させ、相手の気持ちを思いやったやさしい言葉遣いができるように指導し、学年だより等で保護者に知らせる。		
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①「 <u>上西小『5つのあたり前』</u> 」を徹底するために、強化週間を設けたり、代表委員会の活動に取り入れたりして、児童が意識的に取り組めるように工夫をする。 ②上西スマイル賞表彰に「あたり前」の内容を加え、きまりやマナーを守っている児童を称賛する場を設け、実践意欲を喚起する。		
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①日常的なあいさつや（廊下での）会釈など、あいさつの方法について随時指導しながら、模範的な児童を称賛し、意識化を図る。 ② <u>地域学校園の「あいさつ運動」を継続するとともに、地域協議会の「あいさつ標語」も活用しながら、あいさつを進んで自然にできるようにしていく。</u>		
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①学習や行事等で事前に目標を設定する場を設け、実践後に振り返りを行わせ、努力の過程を認め、具体的なよさを称賛していく。 ②目標に向かって取り組む姿勢を児童相互が認め合い、励まし合えるよう指導する。 ③学習の見通しをもたせ、継続的に取り組ませることで、成果を実感できるようにする。		
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①体育や特別活動において健康に関する授業をととして、日常の健康管理に興味をもたせ、健康的な生活が送れるような実践的態度を育てる。休み時間の外遊びを奨励し、体力の増進を図る。 ②食や健康について関連のある題材や学級活動で、栄養士や養護教諭と一緒に授業を考え、専門的な見方や考え方に触れさせ、理解を深めることができるようにする。		

		③日常の指導や学級活動、保健の学習を通して、感染症予防の意識を高めるとともに、新しい生活様式についての知識・技能を身に付けることができるようにする。		
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上		①キャリアパスポートを使い、学んだり取り組んだりした成果を児童の発達段階に合わせたポートフォリオ形式に累積し、目標の実現への手がかりとしている。 ②校内の清掃活動で、班長会議を活用したり、校外でのボランティア活動や奉仕活動等で活躍している児童を称賛したりすることで、社会貢献の実感が得られるようにしていく。 ③総合的な学習の時間で、キャリアについて追究する場を設定し、将来への展望をもてるようにする。		
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上		①児童が進んでコミュニケーションがとれるよう、ALTや外国の人と会話する基本形（例）を作成し、活用を促す。 ②教材教具を作成し、児童が進んでコミュニケーションを図る活動を充実させる。 ③英語に関心を高めるために、放送等を取り入れ啓発を図る。		
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上		①身近な郷土資源を学習に取り入れながら、宇都宮学（3年生以上）においても教材開発に努め、宇都宮の良さに触れる機会を増やしていく。 ②宇都宮学の内容を学年だより等で保護者に伝え、宇都宮の良さをともに理解できるように啓発していく。		
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 90%以上		①各教科や領域等の授業や行事等で活動内容や目的に応じてICT機器の適切な使い方を学び、効果的に活用できるよう指導する。 ②適正な学校図書館蔵書及び環境整備に努めるとともに、チャレンジ読書を一層推進したり、市図書館から貸し出しを受けたりして、学習に必要な図書が活用できるようにする。		
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上		①生活科や総合的な学習の時間、行事等において、地域の方や高齢者と触れ合う時間を意図的に設けるとともに、活動を振り返る時間において感謝する心情を育てる。 ②道徳科の授業で、生命や人権を尊重する心や相手を思いやる心などを醸成する。 ③児童会主催の「感謝の会」を通して、地域の方に支えられていることを再認識させ、感謝する気持ちを育てていく。		
A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上		①環境問題や防災等の、「持続可能な社会」に係る内容を各教科の授業とどう関連させるかを意識しながら指導することによって、関心を高める。 ②教職員がSDGsの意味を理解し、授業や各種教育活動等に関連付けられるよう研鑽する。		

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 90%以上	①児童指導主任や特別支援教育コーディネーターが情報を集約し、全教職員が児童に関する情報交換の場を設け、支援や配慮が要する児童に関する共通理解を図り、組織的に対応する。 ②<u>特別な支援を要する児童の実態や状況に応じて、スクールカウンセラーや関係諸機関と連携を図るなど、チームとして機能を生かし、支援及び指導を充実させる。</u>		
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上	①「いじめゼロ強調月間」に児童会主催の「えがおいっぱい集会」を行うとともに、いじめゼロポスターの掲示・道徳の時間の充実等により、いじめをしない・させない・許さない学校文化を構築する。 ②定期的な教育相談やいじめアンケート等により、全職員で共通理解のもと組織的な対応をし、未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ③学校の取組について、学校だよりや学年だより、HP等で保護者へ積極的な情報発信を行う。		
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上	①児童の自己有用感や自己肯定感を高められる場になるよう、日々の授業や諸活動で児童が活躍する場面を実現し、相互に認め励ますことができるよう学級経営を充実させる。 ②日々の観察をはじめ、教育相談週間によるアンケート調査や相談結果、Q-U調査等を活用して、不登校の未然防止に努めるとともに児童の変化に対して迅速かつ組織的に対応する。		
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①発達の段階に応じて、外国人への差別が許されないことを、授業と関連付けて指導し、多様な文化や伝統、考え方を受容し、相手理解が深まることのすばらしさに気付くようにしていく。 ②必要に応じて関係機関と連携を図り、支援の充実を図る。		
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①確かな児童理解に努め、信頼に基づく人間関係を築く。 ②異年齢集団活動（なかよしタイム、縦割り班清掃、みどりの日の活動）などの特別活動をさらに工夫充実させ、豊かな人間関係を育てる。		
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上	①「宇都宮モデル」の指導過程を活用した授業改善を行うことで、分かる授業を実現する。 ②<u>パワーアップタイムを使い、基礎的な学習内容の習熟を図る。また、複数の教員が指導にかかわることで個に応じた指導を充実させ、学力向上につなげていく。</u> ③学力向上の取組をテストファイルを活用し、保護者との連携を強化するとともに、学年だよりやHPで、保護者に伝えていく。		

A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①学校の全教職員が同じ目標のもとに、情報を共有しながら、学校目標の実現に向けて、教育活動の充実を図る。 ②関係者が協力して取り組めるよう管理職のマネジメント力の向上を図り、学校の組織力を強化する。	
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上	①各自が勤務時間を意識し、長時間労働を削減するために、効率的かつ計画的な業務遂行に努める。 ②学校における働き方改革を推進するため、業務の精選・見直しなどを行う。 ③教職員相互に業務支援を行い、連携しながら課題解決に努める。	
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①映像資料を取り入れながら小中合同のあいさつ運動を行うことで小中学生の交流を図る。 ②6年生を対象とした乗り入れ授業や中学校訪問を行うことで中学校の様子について学ばせるとともに小中学生の交流を図る。 ③地域学校園での取組を、たよりやHPで保護者に積極的に発信していく。	
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①授業や学校行事等において、積極的に学校支援ボランティアや地域協議会の活用を図る。 ②ボランティアの適時募集と充実、PTA常置委員会との連携により、教育活動や学習環境の充実を図る。	
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①授業や行事等の内容を吟味して積極的に出前講座を活用し、教育活動の充実を図る。 ②地域の教育資源を、授業や行事等で効果的に取り入れていく。	
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①普段から校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕に迅速に取り組む。 ②火災、地震、竜巻、不審者侵入等避難訓練を通して、緊急時における対応を確認するとともに、感染症対策についての危機管理マニュアルの見直しと整備を適宜行う。 ③教職員及び保護者を対象にした心肺蘇生法講習を実施し、AEDの操作や救命法についての訓練を行うとともに、保護者と地域に向けてAED設置と活用についての通知を配付する。	
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上	①児童が各教科や領域等の授業や行事等で1人1台端末の操作に慣れ、適切に使えるようにする。 ②各教科の学習に関連した、プログラミング学習を実施するとともに、ICT機器を利用した学習を進められるよう整備をする。 ③学校図書館司書と連携し、学習に必要な関連図書を積極的に借り受け、利用できるようにする。	

本校の特色・課題等	B 1 学校は、保護者と協力して教育活動を展開している。 【数値指標】 ⇒教職員・保護者肯定割合 80%以上	①保護者の思いを共感的に受け止め、スタンダードダイアリー等を用い日常的に連携を図る。 ②学校と保護者が協力して取り組めるよう、丁寧な説明と情報提供に努め、教育活動を展開していく。 ③P T A運営委員会において積極的な情報発信を行う。		
	B 2 児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①教職員の共通理解のもと、時と場に応じた適切な言葉遣いや返事を意識させ、日常指導をしていく。 ②P T A活動や地域協議会等で機会を捉えて意見交換を実施し、学校と家庭・地域が連携・協力を図り指導する。		
	B 3 児童は、縦割り班の活動などで他の学年の児童と協力して活動している。 【数値目標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①児童会活動等で縦割り班活動の充実を図る。 ②「なかよしタイム」の実施等、班の自主性を重んじ、異学年児童の交流がさらに深まるような活動や内容を工夫する。		
	B 4 児童は家庭学習に対してめあてや見通しをもって取り組み、主体的に学ぼうとする意欲が向上している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①児童一人一人が主体的に問題解決的な学習に取り組めるよう工夫するとともに、自主学習強化週間の活用を図っていく。 ②自主学習ノートの使い方を学校で統一し、よいノートを参考にさせたり、掲示物で啓発したりする。 ③学校長表彰により家庭学習の奨励を図るとともに、各種たよりで家庭に紹介し、啓発を図る。		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。